

小学生の衣生活を形成する親子のファッション観

増田 智 恵*・本多 実鶴喜**

Fashion Perception for Parents and Elementary School Students based on Clothing Life Style

Tomoe Masuda* and Mizuki Honda**

Abstract

From the viewpoint of children's guardians, that is, almost all parents of elementary school-aged students (N=204 boys, 202 girls), we researched what items are requested in the teaching materials on clothing choices in home economics curricula. Next, fashion perceptions and the consciousness and care of clothing by parents and elementary school-aged students were investigated. The features of the garments' acquisition style (including purchase and delivery methods) for the children's garments were extracted based on fashion perceptions (awareness of styles and their care) of each parent and student.

Concerning the teaching materials on clothing life in home economics classes, the parents expressed a strong desire for lessons on "clothing selection, dressing, and care". 'Parents and guardians' requests for sewing lessons were more common for those with girls than those with boys. The teaching materials on the purchase of garments were not delivered at the elementary school level.

Behaviors related to clothing purchases and acquisition by parent and student were examined using the principal component analysis and cluster analysis based on their commonality and dissimilarities regarding perceptions of fashion perception (style consciousness and care). Four similar tendencies were extracted from the parents.

- A. High fashion perception among both parents and children (parents of 60 boys and 70 girls),
- B. High fashion consciousness among parents, but low fashion perception by children type (parents of 65 boys and 67 girls),
- C. Low perception fashion among both parents and children (parents of 21 boys and 25 girls),
- D. High levels of clothing care among parents and the parents of boys, or a slightly high fashion perception among parents of girls (parents of 58 boys and 31 girls).

The behavior differences in parents' purchase behaviors and the garments' delivery methods were recognized by parents' high and low perceptions of fashion. In cases where the children's fashion perception was high, there was a tendency for parents and children to talk about clothes, and they tend to discuss and purchase clothes at stores. Communication between parents and children using clothing is suggested. By contrast, in case where the children's fashion perception is low, the purchase and delivery method of clothing was handled mainly by parents, who often shop in stores and mail-order. The number of these participants was small, but when the fashion perceptions of both the parents and the children were low, the parents showed a greater control over clothing purchase and delivery behavior. We look like the groups where the children don't care about clothes.

Keywords: home economics, fashion perception, parents, elementary school students, clothing life style, principal component and cluster analysis

* 三重大大学教育学部

** 津市立修成小学校

1. 緒 言

「子ども服のファッション」として、様々な情報¹⁾²⁾が提供され(例えば2019年おすすめ子供服ブランド18選 <https://smarby.jp/articles/40705> 2019年10月現在)、購入目的や要求に応じたアドバイスをもとにセレクトした子ども服の提供が多々みられる。販売側やリサーチ会社からの情報として、生活者の衣服選択・購入サポートがされている。ある意味販売主導型の従来の既製服販売であるが、購入者の選択知識や意識などが問われる点が大きく異なる。子ども服の知識とともに親自身の服に対する意識に伴う行動の違いにより、選択・購入スタイルも異なることが予想される。

親が子ども服を選び、徐々に子どもが自分で選んで着装し、管理までができる体制は、小学校に達してからと思われる。したがって日本の教育では、小学校高学年の家庭科教育のなかで衣生活のための知識や実践の初歩的内容を取り上げている。将来、社会人として自己も表現し且つ他とのコミュニケーションをとりつつ、生きていくための衣生活初歩コースを体験させている。ただし、子ども達は生まれた時から服を着ており、知識はなくても嗜好による選択、すなわち好みによってまたなんとなくお気に入りの服を選んでいる。子どものファッション観と一般的に最も近い親のファッション観との関係について、子どもが自立して自己意識による行動へと結びつく変化があらう小学生に関して、保護者と保護者からみた子どものファッション観について調査を試みた。近年のネットを利用した衣服購入や子供用ファッション雑誌などの環境³⁾の中で、親子(本研究では、保護者と子どもとする)の衣生活実態をファッション観から捉え、家庭科教育での衣生活情報として構築したい。子ども自体にアンケートを依頼することは難しいため、近年の衣生活行動の研究では小学生対象の研究は少ない。大半が中学生以上の結果⁴⁾⁵⁾にとどまる。本研究では小学生の衣生活を指導している立場の保護者からその実態を捉えることとした。

はじめに小学生の保護者を対象に、小学校家庭科の衣生活⁶⁾⁷⁾⁸⁾で取り扱う内容として、具体的に要求される教材の要求度を調査し、衣生活教育への意識を検討した。次に、保護者自身と保護者からみた子どものファッション観をファッションに対する意識とその管理と捉え、その意識と管理の実態から起こる行動として、保護者の子供服の調達スタイルの特徴を検討した。

保護者の家庭科教育に要求する衣生活教材を踏まえ、保護者と男女の子どもそれぞれのファッション観(意識・管理)の共通のもしくは相違の組み合わせから表出する子ども服調達(購入・譲受け)の行動について、いくつかのタイプがあることを究明した。

2. 研究調査方法

2.1 調査内容

- 1) 調査期間 2018年11月上旬～12月中旬
- 2) 調査方法 アンケートによる留置調査法
- 3) 調査対象者 6歳～12歳の小学生の保護者516人(三重大学附属小学校と他の小学校)を対象に、子どもの性別ごとに回答を依頼した。

有効回答数は406名(回収率78.68%)、平均年代は40歳前半(20代～60代)で、主に30代後半約20%、40代前半約42%、40代後半約26%であった。保護者の大半は女性で母親が中心で、仕事以外は子供と一緒にいる環境である。406名の保護者の内、男の子のみの回答163名、女の子のみの回答161名、男女の子どもを別々に回答したのは41名である。したがって、男の子の保護者204名、女の子の保護者202名による調査分析を行った。調査対象の小学性(児童)の平均学年は3.44年生(SD=1.74年生)、平均年齢9.16歳(SD=1.78歳)である。

4) 質問項目

質問Aでは保護者(回答者)とその子ども(児童)の基本属性(年齢、性別、関係など)、質問BではTable 1に示すI. 保護者のファッション観(質問1～8)、II. 保護者から見た子どものファッション観(質問9～14)、III. 保護者と子どものファッション意識(質問15, 16)、IV. 子どもの衣服調達スタイル(質問17, 25)、V. 保護者が小学校家庭科教育教材に対しての要求度(質問a～n)について検討した。

質問Bでは「全くしない・あてはまらない、ややあてはまらない、どちらでもない、ややあてはまる、よくする・あてはまる」などの5段階評価を行った。

5) 分析方法

分析は基本統計と多変量解析(主成分分析とクラスタ分析)を用いて、エクセル統計およびSPSSにより処理した。

3. 結果および考察

3.1 小学校家庭科の授業教材内容の要求について

はじめに回答の保護者が小学校家庭科に対して要求する衣生活に関する授業内容について、質問Vの現行の小学校家庭科教科書に使用されている内容a～fと将来必要と思われる内容g～nの5段階評価結果について検討する。対象は男の子の保護者(n=204)、女の子の保護者(n=202)である。

1) 授業教材に要求する内容について

a～nの回答について、男女別の子どもの保護者の平均値(mean)と標準偏差(SD)をTable 2に示す。男女

の保護者間の平均値の差の検定には、*t*-testを用いた。

男女別の子どもの保護者が要求する項目間に、a. 裁縫（手縫い）とb. 裁縫（ミシン縫い）の縫製に関する項目以外に有意な差はない。a と b については、女の子の保護者の方が男の子の保護者より要求度がやや高い。ただし、a と b の項目も含めて大半の項目についての要求度は3.5 以上で、授業教材内容として要求している。k. ネット等の通信販売の利用方法についてのみ両保護者ともにその回答の平均値はやや低く、授業で取り上げる必要性は高くない。

男の子の保護者と女の子の保護者の回答は、要求度に a と b の項目にやや差はあるが同傾向のため、男女あわせた全ての保護者406 名を対象に検討する。

2)主成分分析による要求成分の特徴抽出と分類

男女の子ども保護者の主成分分析の結果を Table 3 に示す。

固有値 1 以上では、主成分 PC1～PC3（累積寄与率 69.132%）が抽出された。

PC1（寄与率 47.222%）：第 1 主成分として、男女の子どもでも差のあった縫製に関する a, b と要求度のやや低かった k 以外の項目が抽出された。家庭科の授業教材内容の要求成分と考えられる。とくに、e～f の衣服の着方、選択方法、サイズの把握が 0.8 前後の高い負荷量を示した。また、衣服の管理関係の d, h, j などに関して約 0.7 の負荷量が認められる。PC1 は「衣服の選択・着装・管理の要求度」成分と考えられる。子どもが衣生活を身に付けられるための成分とも思われる。

主成分得点 PCS1 が高いと「衣服の選択・着装・管理の要求度」、すなわち a, b, k を除く項目での家庭科教育での指導要求度が高く、PCS1 が低いとこれらの要求度は低い傾向を示した。また、PCS1 について男女別の保護者の平均値を比較したが、有意差もなくほぼ同様の傾向であった。

PC2（寄与率 13.042%）：第 2 主成分として、縫製に関する a, b の負荷量が約 0.8 で高い。PC2 は「裁縫の要求度」成分と考えられる。保護者は家庭科教育での「裁縫の要求度」について、主成分得点 PCS2 が高いほどその要求は高いが、主成分得点 PCS2 が低いと「裁縫の要求度」は高くない。1) の男女別々の子どもの保護者の要求度でも述べたが、「裁縫の要求度」の高い PCS2

Table 1 アンケート質問 B の項目I～V

質問の分類	質問項目（男女の子ども別に5段階評価）
I. 保護者のファッション観	1. 現在のファッションに対する興味 2. お子様が生まれる前のファッションに対する興味 3. 子ども服に対する興味 4. ファッション雑誌を購読する 5. 衣服の管理ができる（洗濯、保管など） 6. 回答者の衣服を購入する 7. 回答者の服装はTPOが守られている 8. 新しい衣服が欲しいと思う
II. 保護者からみた子どものファッション観	9. 子どものファッションに対する興味 10. 子どもはファッション雑誌を購読する 11. 子どもは衣服の管理を行うことができる 12. 子どもは自分でその日着る服を選ぶ 13. 子どもの服装はTPOが守られている 14. 子どもは新しい衣服を欲しがる
III. 保護者と子どものファッション意識	15. 子どもと衣服について会話をする 16. 子どもと回答者のファッションは似ている
IV. 子どもの衣服の調達（購入・譲受け）スタイル	17. 子どもと買い物に出かける 18. 子どもの衣服を購入する 19. 回答者のみが決める 20. 子どもと話しあって決める（または子どもの意見を聞く） 21. 子どものみが決める 22. 店頭（スーパー、百貨店など） 23. ネット等の通信販売 24. フリマアプリ（メルカリ、ラクマ等） 25. 人から譲ってもらう
V. 保護者が小学校家庭科教育教材に対しての要求度	a. 裁縫の仕方（手縫い） b. 裁縫の仕方（ミシン縫い） c. 洗濯の仕方（手洗い） d. 洗濯の仕方（洗濯機） e. 季節に応じた衣服の着方 f. 活動に応じた衣服の着方 g. T.P.O.をふまえた衣服の着方 h. 着なくなった衣服の活用方法 i. 必要な衣服の選択方法 j. 衣服の手入れの方法・基礎技能 k. ネット等の通信販売の利用方法 l. 服購入の際に必要な知識 m. 自分の衣服サイズの把握 n. 衣服のリサイクルについて

の回答者に女の子の保護者が多く、「裁縫の要求度」の低い PCS2 の回答者に男の子の保護者が多い傾向があった。その結果、PCS2 の男女別の保護者の平均値にも危険率 1% で有意差が認められ、確かに女の子の保護者の「裁縫の要求度」が高いことが認められた。

PC3（寄与率 8.868%）：第 3 主成分として、第 1 と第 2 の主成分負荷量より正負の値が高いのは、「k. ネッ

Table 2 子ども男女別の保護者要求度の平均値と SD

質問項目	男の子の保護者 n = 204		女の子の保護者 n = 202		t-test
	mean	SD	mean	SD	
a.裁縫の仕方（手縫い）	4.00	1.01	4.40	0.79	**
b.裁縫の仕方（ミシン縫い）	3.57	1.16	4.18	0.93	**
c.洗濯の仕方（手洗い）	3.99	1.03	4.05	0.99	
d.洗濯の仕方（洗濯機）	4.24	1.00	4.07	1.06	
e.季節に応じた衣服の着方	4.02	1.03	3.90	1.07	
f.活動に応じた衣服の着方	4.10	0.99	4.00	1.04	
g.T.P.O.をふまえた衣服の着方	4.30	0.87	4.18	0.96	
h.着なくなった衣服の活用方法	3.56	1.03	3.56	0.99	
i.必要な衣服の選択方法	3.83	0.92	3.71	0.97	
j.衣服の手入れの方法・基礎技能	3.96	0.91	4.04	0.90	
k.ネット等の通信販売の利用方法	2.86	1.22	2.85	1.23	
l.衣服購入の際に必要な知識	3.54	1.10	3.68	1.08	
m.自分の衣服サイズの把握	3.91	1.06	3.74	1.08	
n.衣服のリサイクルについて	3.56	1.07	3.54	1.07	

* : $P < 0.05$ ** : $P < 0.01$

ト等の通信販売の利用方法」についてのみであった。また、「I, n の衣服購入やリサイクル」の項目の負荷量も約 0.5 前後を示す。保護者が子どもを対象として判断した授業教材内容の要求項目として、子ども自身が衣服購入やリサイクルまでは無理と判断していることが伺える。PC3 は主に「衣服調達の要求度」の成分と考えられた。主成分得点 PCS3 が高いと「衣服調達の要求度」についての家庭科教育で取り上げて欲しいが、PCS3 が低いと「衣服調達の要求度」は低い傾向を示した。PCS3 に関して、男女別々の子どもの保護者の要求度に有意差は認められず、ほぼ同じ傾向であった。

以上、本回答の保護者の家庭科教育内容について、「裁縫の要求度」に男女の子どもと保護者での要求度にやや差はあるが、小学生として自分で基本的な衣生活（衣服の選択・着・管理）ができるようになることを望んでおり、消費的な衣服調達部分までは難しいと判断しているようである。

3.2 保護者自身と保護者からみた子どものファッション観（質問BのⅠ～Ⅵ合計 25 項目）について

子どもの性差による保護者の回答の差の検定について、はじめに男女の両性の子どもをもつ保護者（41 名）と男女いずれかのみの子供をもつ保護者間（男の子のみ 163 名、女の子のみ 161 名）の質問 25 項目について、平均値の差の検定（*t*-test）を行った。男の子のみと女の子の子どもをもつ保護者間、女の子のみと男女の子どもをもつ保護者間、いずれも有意差（ $P < 0.01$, $P < 0.05$ ）

Table 3 男女の子どもと保護者の因子負荷量

質問項目	n = 406		
	PC1	PC2	PC3
a.裁縫の仕方（手縫い）	0.378	0.807	-0.152
b.裁縫の仕方（ミシン縫い）	0.364	0.807	-0.021
c.洗濯の仕方（手洗い）	0.601	0.431	-0.127
d.洗濯の仕方（洗濯機）	0.745	0.039	-0.219
e.季節に応じた衣服の着方	0.832	-0.263	-0.316
f.活動に応じた衣服の着方	0.834	-0.283	-0.341
g.T.P.O.をふまえた衣服の着方	0.792	-0.199	-0.265
h.着なくなった衣服の活用方法	0.726	0.029	0.068
i.必要な衣服の選択方法	0.801	-0.234	-0.039
j.衣服の手入れの方法・基礎技能	0.746	0.112	0.027
k.ネット等の通信販売の利用方法	0.470	-0.051	0.622
l.衣服購入の際に必要な知識	0.674	-0.050	0.462
m.自分の衣服サイズの把握	0.779	-0.253	0.144
n.衣服のリサイクルについて	0.630	0.098	0.489
固有値	6.611	1.826	1.242
寄与率（%）	47.222	13.042	8.868
累積寄与率（%）	47.222	60.264	69.132

が認められたのは 2 項目にとどまった。ただし、差の認められた項目間の評価差は 1.0 以上の差はなく、且つ評価値も 4 以上や 1 以下などの非常に高低の大きな評価差ではなかった。

3.1 と同様、男女の別の回答としてそれぞれに組み込んで、男の子の保護者 $n=204$ 、女の子の保護者 $n=202$ として考察を進める。

3.2.1 男の子と女の子の各保護者の主成分分析による

ファッション観（意識・管理）の特徴抽出

Table 4 に男の子の保護者と女の子の保護者のファッション観（質問BのⅠ～Ⅵ）の 25 項目の平均値と SD

Table 4 ファッション観の平均値と標準偏差（SD）

質問の分類	質問項目（男女の子ども別に5段階評価）	男の子の保護者 n = 204		女の子の保護者 n = 202		t-test
		mean	SD	mean	SD	
Ⅰ. 保護者のファッション観	1. 現在のファッションに対する興味	3.62	1.00	3.60	0.99	
	2. お子様が生まれる前のファッションに対する興味	4.11	0.92	4.06	0.97	
	3. 子ども服に対する興味	3.89	0.89	3.93	0.90	
	4. ファッション雑誌を購読する	2.19	1.35	2.29	1.36	
	5. 衣服の管理ができる（洗濯、保管など）	4.33	0.80	4.31	0.74	
	6. 回答者の衣服を購入する	4.15	0.99	4.23	0.90	
	7. 回答者の服装はTPOが守られている	4.19	0.78	4.22	0.69	
	8. 新しい衣服が欲しいと思う	4.20	0.94	4.21	0.91	
Ⅱ. 保護者からみた子どものファッション観	9. 子どものファッションに対する興味	2.80	1.17	4.08	0.87	**
	10. 子どもはファッション雑誌を購読する	1.09	0.42	1.67	1.19	**
	11. 子どもは衣服の管理を行うことができる	1.83	1.09	2.52	1.25	**
	12. 子どもは自分でその日着る服を選ぶ	2.89	1.46	3.79	1.19	**
	13. 子どもの服装はTPOが守られている	3.47	1.06	3.69	1.03	*
	14. 子どもは新しい衣服を欲しが	2.28	1.25	3.81	1.14	**
Ⅲ. 保護者と子どものファッション意識	15. 子どもと衣服について会話をする	2.70	1.14	3.90	0.98	**
	16. 子どもと回答者のファッションは似ている	2.67	1.18	3.03	1.15	**
Ⅳ. 子どもの衣服の調達（購入・譲受け）スタイル	17. 子どもと買い物に出かける	3.44	1.18	4.20	0.92	**
	18. 子どもの衣服を購入する	3.98	0.91	4.15	0.79	*
	19. 回答者のみが決める	3.53	1.22	2.92	1.23	**
	20. 子どもと話しあって決める（または子どもの意見を聞く）	3.78	1.11	4.35	0.83	**
	21. 子どものみが決める	2.01	1.20	2.56	1.26	**
	22. 店頭（スーパー、百貨店など）	4.45	0.70	4.47	0.66	
	23. ネット等の通信販売	2.94	1.50	3.04	1.43	
	24. フリマアプリ（メルカリ、ラクマ等）	1.25	0.75	1.26	0.70	
	25. 人から譲ってもら	2.24	1.36	2.42	1.47	

*, $P < 0.05$, **, $P < 0.01$

を示す。

男女別の子どもをもつ保護者間の回答を比較すると、半数以上の13項目に有意差が認められた。危険率5%で有意差が認められたのは13, 18で、危険率1%で有意差が認められたのは9~12, 14~17, 19~21の11項目であった。とくに、Ⅱ. 保護者から見た子どものファッション観, Ⅲ. 保護者と子どものファッション観, Ⅳ. 子どもの衣服調達スタイルの項目において、男女間で差が見られる。女の子の保護者が男の子の保護者より平均値は大きい傾向にあるが、Ⅳ. 子どもの衣服調達スタイルの19では逆の結果であった。男の子どもの服は、保護者が購入する傾向が強いことが把握できる。

子どもの性別による衣生活を背景としたファッション観（意識・管理）には差があることが示唆される。以後、男の子の保護者と女の子の保護者の回答に分けて検討する。

1) 男の子の保護者の主成分分析の特徴

Table 5 に、男の子の保護者の主成分分析の結果を示す。

固有値1以上で主成分PC1~PC8（累積寄与 62.100%）が抽出された。主な主成分 PC1（寄与率 18.429%）~ PC4（寄与率 6.403%）について検討する。

PC1（寄与率 18.4297%）： 負荷量が絶対値 0.4 以上を示した項目は、1~4, 6~9, 14~15, 17~18であった。とくに保護者自身の、Ⅰの3. 子ども服に対する興味の負荷量が 0.7 前後で高く、次に負荷量が約 0.6 のやや高い値を示したのは15.子どもと衣服について会話をするであった。その他、保護者自身の着感、男の子どものファッション意識と購入頻度などの項目に 0.5 前後の負荷量が認められた。PC1は「保護者と男の子のファッション意識と購入頻度の関係」の成分であると考えられる。

主成分得点 PCS1 が高いと保護者と子どもでファッション意識があり、子ども服の購入頻度も高い傾向で、逆に PCS1 が低いと保護者と子どもでファッション意識は低く、子ども服の購入頻度も低い。

PC2（寄与率 10.983%）： 負荷量が絶対値 0.4 以上を示したのは、2, 6, 9, 11, 12, 14, 19, 20 であった。正の負荷量が 0.5 前後を示したのは、11. 子どもは衣服の管理を行うことができる、12. 子どもは自分でその日着る服を選ぶ、14. 子どもは新しい服を欲しがると、20. 子どもと話し合って決める（または子どもの意見を聞く）であった。一方、負の負荷量が約-0.5~-0.6 は2. お子様が生まれる前のファッションに対する興味と19. 回答者のみが決めるであった。PC2は「男の子の衣服の着感・管理意識・購入スタイルと保護者のファッション意識の関係」の成分と考えられる。主成分得点 PCS2 が低いと保護者自身のファッション意識は高く且つ子

ども服を話し合って購入するが、男の子の着装と管理の意識は低い。主成分得点 PCS2 が高いと逆に保護者自身のファッション意識は低く且つ子ども服を保護者だけで購入するが、男の子の着装と管理の意識は高い。保護者と男の子のファッション意識などが逆の関係として抽出されている。

PC3（寄与率 8.108%）： 負荷量が絶対値 0.4 以上を示したのは、正の値では19と23で、負の値では5, 6, 12のみであった。とくにⅣ. 子どもの衣服調達スタイルの19. 回答者のみが決めると23. ネット等の通信販売の正の負荷量が 0.5 前後で、Ⅰ. 保護者のファッション観の5. 衣服の管理ができる（洗濯、保管など）の正の負荷量が約 0.5 を示し、やや高い値であった。PC3は「保護者の衣服管理と男の子の購入手段との関係」の成分であった。主成分得点 PCS3 が高いと、保護者の衣服管理が低く、子どもの衣服購入はネット等の通信販売やフリマアプリを利用して保護者が決める傾向が強くなり、PCS3 が低いとその逆の傾向であった。

PC4（寄与率 6.403%）： Ⅳ. 子どもの衣服調達スタイルの17. 子どもと買い物に出かける、18. 子どもの衣服を購入する、22. 店頭（スーパー、百貨店など）が、負荷量-0.4~-0.5 を示した。PC4は「子どもの衣服購入頻度と購入スタイル」成分であった。主成分得点 PCS4 が低いと、子どもと買い物に出かけて、店頭で衣服をよく購入するし、逆の PCS4 が高いとその逆の傾向であった。

PC5（寄与率 5.258%）~PC8（寄与率 4.078%）は正負の値が 0.4 以上は2つ以下であった。

2) 女の子の保護者の主成分分析の特徴

Table 6 に、女の子の保護者の主成分分析の結果を示す。

固有値1以上で主成分 PC1~PC8（累積寄与率 62.802%）が抽出された。主な主成分 PC1（寄与率 20.321%）~PC4（寄与率 5.843%）を検討する。

PC1（寄与率 20.321%）： 負荷量が正の値 0.4 以上を示した項目は、1~3, 6~10, 13~15, 17~18, 22 であった。Ⅰ. 保護者のファッション観のうち1~3と8のファッション意識と衣服購入、Ⅱ. 保護者から見た子どものファッション観の9, 13, 14の子どもファッション意識と衣服購入、Ⅲ. 保護者と子どものファッション意識の15. 子どもと衣服について会話をするとⅣ. 子どもの衣服の調達スタイルの17. 子どもと買い物に出かける、18. 子どもの衣服を購入する、22. 店頭（スーパー、百貨店など）の項目に負荷量約 0.5~0.7 前後のやや高い正の値を示した。

PC1は「保護者と女の子のファッション意識と子どもの衣服購入スタイルの関係」の成分と考えられる。主成分得点 PCS1 が高いと、保護者と女の子はファッショ

ン意識は高く、服の購入要望も高く、一緒に衣服について会話をし出かけて服を購入するが、主成分得点 PCS1 が低いとその逆の傾向であった。

PC2 (寄与率 11.327%) : 他の主成分より高い正の負荷量を示したのは 19, 負の負荷量を示したのは 12, 20, 21 の項目であった。なお, 21 は PC6 での負の負荷量が高い。II の 12. 子どもは自分でその日着る服を選ぶ, IV. 子どもの衣服の調達スタイルのうち 19. 回答者のみが決める, 20. 子どもと話し合って決める (または子どもの意見を聞く), 21. 子どものみが決めるである。PC2 は「女の子の着衣意識と衣服購入スタイル」の成分と考えられる。主成分得点 PCS 2 が低いと子どもの着衣意識が高く衣服購入に関わる傾向があるが, PCS 2 が高いとその逆であった。

PC3 (寄与率 6.461%) : 負荷量が正の値を示したのは 23 で, 負の値を示したのは 5 と 22 の項目であった。とくに, IV. 子どもの衣服の調達スタイルの 22. 店頭(スーパー, 百貨店など)と 23. ネット等の通信販売は正負の相反した負荷量でやや高い値を示す。PC3 は「保護者の衣服管理と女の子の衣服の購入スタイルの関係」の成分と考えられる。主成分得点 PCS3 が高いと保護者の衣服管理度はやや低く且つ子どもの衣服購入にネット等の通信販売を利用し, PCS3 が低いと保護者の衣服管理度はやや高く且つ子どもの衣服を店頭で購入する傾向にあった。

PC4 (寄与率 5.843%) : 負荷量が負の値を示したのは, IV. 子どもの衣服の調達スタイルの 17. 子どもと買い物に出かけると 18. 子どもの衣服を購入するであった。PC4 は「女の子の衣服購入スタイル」に関する成分であった。主成分得点 PCS4 が低いと子どもと買い物に出かけて衣服を購入する傾向が高く, PCS4 が高いとその逆の傾向を示した。

PC5 (寄与率 5.231%) ~ PC8 (寄与率 4.268%) では, 負荷量の絶対値が 0.4 以上を示したのは 1 ~

2 項目であった。

ファッション観 (意識・管理) と購入スタイルに関して, 男女の子どもと各保護者との関係の成分と子どもの独立したファッション観 (意識・管理) などの成分が抽出された。

3.2.2 男の子と女の子の各保護者のクラスタ分析による特徴分類

1) 男の子の保護者のクラスタ分析の特徴

主成分得点 PCS1 ~ PCS3 (Table 5) を用いて, Ward 法によるクラスタ分析を行った。デンドログラムで明確に分類できるクラスタの 1 ~ 4 について検討する。クラス

Table 5 男の子の保護者の因子負荷量

質問の分類	質問項目	PC1	PC2	PC3	PC4	PC5	PC6	PC7	PC8
I. 保護者のファッション観	1	0.738	-0.314	0.078	-0.011	-0.042	-0.217	-0.087	-0.018
	2	0.560	-0.471	-0.102	-0.163	-0.112	-0.147	0.152	-0.071
	3	0.662	-0.248	0.079	-0.056	-0.143	-0.098	-0.047	-0.206
	4	0.519	-0.100	0.342	0.133	0.231	0.005	0.121	0.170
	5	0.383	-0.264	-0.464	0.243	-0.096	0.216	-0.116	0.069
	6	0.471	-0.410	-0.401	0.294	0.162	0.041	-0.007	0.061
	7	0.535	-0.361	-0.302	0.331	-0.036	0.320	0.002	0.096
	8	0.563	-0.322	-0.027	0.041	0.122	-0.144	0.274	-0.110
II. 保護者からみた子どものファッション観	9	0.502	0.424	0.169	0.118	-0.286	0.056	-0.020	-0.389
	10	0.167	0.097	0.279	0.245	-0.181	-0.015	0.543	0.338
	11	0.226	0.471	0.137	0.172	-0.118	0.331	0.200	0.108
	12	0.216	0.499	-0.410	0.198	-0.005	-0.086	0.146	-0.035
	13	0.358	0.176	0.014	-0.005	-0.470	0.319	-0.295	0.364
	14	0.490	0.507	0.204	0.008	-0.136	0.056	0.215	-0.070
III. 保護者と子どものファッション意識	15	0.599	0.364	0.168	0.156	0.116	-0.035	-0.096	-0.354
	16	0.331	0.088	0.352	0.034	0.308	0.387	-0.407	-0.207
IV. 子どもの衣服の調達(購入・譲受け)スタイル	17	0.403	0.356	-0.065	-0.427	0.328	-0.031	0.029	0.209
	18	0.485	0.094	0.081	-0.538	0.046	0.003	0.149	0.131
	19	-0.062	-0.558	0.477	-0.174	-0.020	0.266	0.184	-0.069
	20	0.382	0.454	-0.263	-0.229	0.258	0.055	-0.115	0.261
	21	0.148	0.331	-0.234	0.380	0.225	-0.444	-0.035	0.013
	22	0.281	-0.077	-0.374	-0.503	0.262	0.215	0.111	-0.097
	23	0.337	-0.061	0.522	-0.024	-0.016	-0.338	-0.228	0.149
	24	0.096	-0.146	0.376	0.316	0.379	-0.044	-0.199	0.364
	25	-0.290	0.037	0.134	0.276	0.509	0.301	0.288	-0.178
固有値		4.607	2.746	2.027	1.601	1.315	1.152	1.058	1.020
寄与率 (%)		18.429	10.983	8.108	6.403	5.258	4.608	4.233	4.078
累積寄与率 (%)		18.429	29.411	37.520	43.922	49.181	53.789	58.022	62.100

Table 6 女の子の保護者の因子負荷量

質問の分類	質問項目	PC1	PC2	PC3	PC4	PC5	PC6	PC7	PC8
I. 保護者のファッション観	1	0.633	0.435	0.161	-0.079	0.168	-0.130	-0.202	-0.205
	2	0.621	0.345	0.145	0.113	0.177	-0.215	-0.177	-0.224
	3	0.656	0.392	-0.033	-0.010	0.108	0.067	0.016	-0.248
	4	0.392	0.280	0.190	-0.369	-0.232	-0.190	0.087	0.155
	5	0.233	0.307	-0.514	0.277	0.303	0.148	0.251	0.133
	6	0.407	0.265	-0.363	0.123	0.001	-0.313	0.083	0.205
	7	0.440	0.323	-0.346	0.315	0.042	0.137	0.241	0.165
	8	0.528	0.423	0.108	0.074	0.222	-0.155	-0.068	-0.064
II. 保護者からみた子どものファッション観	9	0.541	-0.404	-0.066	0.183	-0.374	0.181	0.172	-0.170
	10	0.467	-0.231	-0.061	-0.138	-0.329	0.015	0.319	-0.003
	11	0.219	-0.318	0.056	-0.029	0.124	-0.269	0.070	0.589
	12	0.342	-0.629	-0.058	0.187	0.253	-0.108	0.013	-0.004
	13	0.519	-0.133	0.235	0.398	-0.063	-0.105	-0.084	0.140
	14	0.563	-0.457	0.040	0.319	-0.242	0.036	0.066	-0.095
III. 保護者と子どものファッション意識	15	0.697	-0.168	0.125	0.119	-0.055	0.235	-0.152	0.033
	16	0.333	0.199	0.195	0.171	-0.256	0.147	-0.492	0.464
IV. 子どもの衣服の調達(購入・譲受け)スタイル	17	0.531	-0.153	0.080	-0.491	0.208	0.170	0.095	0.203
	18	0.552	0.000	0.133	-0.539	0.018	0.140	0.089	0.147
	19	-0.237	0.560	0.102	0.100	-0.225	0.048	0.052	0.034
	20	0.370	-0.448	0.082	-0.003	0.444	0.300	-0.104	-0.075
	21	0.099	-0.484	0.111	-0.027	0.142	-0.604	-0.020	-0.185
	22	0.404	-0.048	-0.527	-0.374	-0.005	0.171	-0.102	-0.157
	23	0.148	0.166	0.609	0.117	-0.085	0.276	0.320	-0.150
	24	-0.161	0.161	0.397	0.090	0.345	-0.051	0.543	0.118
	25	-0.396	-0.092	0.133	0.115	0.378	0.386	-0.200	0.110
固有値		5.080	2.832	1.615	1.461	1.308	1.234	1.104	1.067
寄与率 (%)		20.321	11.327	6.461	5.843	5.231	4.937	4.416	4.268
累積寄与率 (%)		20.321	31.647	38.108	43.951	49.181	54.119	58.535	62.802

タ別の主成分得点とI～IVの各項目の平均値とSDを、Table 7とTable 8にまとめた。同時に前述Table 3の男の子の保護者全員での平均値とも比較した。

クラスタ1 (n=60)：人数が二番目に多いクラスタで、PCS2の正の平均値が高い。保護者のファッション観（意識・管理）はクラスタ2に次いで同様に高く、男の子のファッション観（意識・管理）もやや高い。衣服購入は保護者と男の子で一緒に買い物に出かけ店頭で話し合っている傾向が高かった。

男の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者のファッション観（意識・管理）は平均値と大差なく、男の子のファッション観（意識・管理）がとくに高く、保護者は子どもと一緒に買い物に行き、保護者のみで衣服選択を決めることがない傾向を示した。

クラスタ1は、「ファッション観（意識・管理）」に関して、保護者がやや高いが平均的傾向に対して男の子はとくに高く、保護者と男の子が一緒に話し合っている傾向が強い。IとII～IVの各平均値の差が最も少ないクラスタであった。

クラスタ2 (n = 65)：最も人数の多い、PCS2の負の平均値が高く、PCS3の正の平均値がやや高いクラスタである。Iの保護者のファッション観（意識・管理）では、4以外の項目の平均値は最も高く4.5前後の評価が多い。しかし、保護者から見た男の子のファッション観（意識・管理）などを示すII～IIIは逆に他のクラスタに比べ平均値は低い。VIの18, 19, 22, 23の平均値が高い傾向を示す。男の子の服を保護者が決めて、店頭とネット等を利用して購入する傾向が高い。ネット等を利用する衣服購入スタイルが認められるのは、クラスタ2のみである。

男の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者のファッション意識がとくに高く、男の子のファッション管理がとくに低く、ネット等を利用した保護者のみでの衣服選択が他のクラスタよりとくに高い。

クラスタ2は、「ファッション観（意識・管理）」に関して保護者はとくにファッション意識が高く、男の子はファッション観が低く、男の子の衣服は保護者主体で店頭と通販での購入スタイルのグループ」であった。Iの保護者のファッション観の平均値4.18とII～IVの男の子のファッション観と衣服購入などのスタイルの平均値2.70には有意差が認められ、ファッション観と購入が保護者中心のクラスタであった。

クラスタ3 (n=21)：人数が最も少なく、PCS1の負の平均値が高い、PCS2とPCS3の正の平均値も高いクラスタである。Table 7の評価項目の平均値も、他のクラスタと比較して全体的に低い傾向を示し、IVの18, 19, 22の平均値のみが3.67～3.86のやや高い値で

あった。ただし男の子の保護者全員での平均値と比較すると、18, 19, 22はむしろ低い平均値で、25.人から譲ってもらうが他のクラスタに比べてとくに高い傾向であった。男の子の衣服購入を19.回答者のみが決めるは、2番目に高い平均値であった。

クラスタ3は、「保護者と男の子の両方でファッション観（意識・管理）が低く、男の子の衣服購入は保護者主体の譲受けも含めた調達スタイルのグループ」であった。

クラスタ4 (n=58)：人数はクラスタ1とほぼ同様である。PCS3の負の平均値が高い。Iの保護者の1.ファッション意識より5～7の衣生活管理やTPOなどの平均値が他のクラスタよりやや高い。男の子の12, 13の衣服着装やTPOなどの平均値はやや高いがファッション意識はとくに低い。保護者と男の子が話し合っている傾向が強い。

男の子の保護者全員での平均値と比較すると、男の子のファッション意識は低く、保護者との衣服に関する会話や衣服購入希望がとくに低い。ネット等を利用した購入スタイルも低い。

クラスタ4は「保護者と男の子のファッションの管理はやや高く意識は低い、話し合っている傾向が強い」

Table 7 男の子の保護者のクラスタ別主成分得点の平均値とSD

Cluster	Cluster 1 n = 60		Cluster 2 n = 65		Cluster 3 n = 21		Cluster 4 n = 58	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
PCS1	0.47	0.78	0.24	0.87	-1.33	0.92	-0.27	0.87
PCS2	0.82	0.57	-0.93	0.80	0.90	0.83	-0.13	0.51
PCS3	-0.08	0.51	0.54	0.77	1.29	0.89	-0.99	0.63

Table 8 男の子の保護者のクラスタ別回答の平均値とSD

分類	質問項目	Cluster 1 n = 60		Cluster 2 n = 65		Cluster 3 n = 21		Cluster 4 n = 58	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
I	1	3.77	0.85	4.14	0.70	2.48	0.98	3.31	1.01
	2	3.92	0.89	4.55	0.56	2.95	1.20	4.24	0.73
	3	4.02	0.83	4.25	0.61	3.19	1.08	3.62	0.93
	4	2.18	1.35	2.69	1.44	1.81	1.03	1.78	1.20
	5	4.30	0.65	4.48	0.64	3.24	1.14	4.59	0.65
	6	4.20	0.88	4.37	0.78	2.48	0.81	4.45	0.78
	7	4.18	0.62	4.46	0.61	3.00	0.89	4.33	0.66
	8	4.30	0.65	4.48	0.69	3.19	1.47	4.16	0.97
Total (I)		3.86	0.23	4.18	0.28	2.79	0.20	3.81	0.19
II	9	3.53	0.87	2.55	1.19	2.76	1.18	2.34	1.07
	10	1.08	0.33	1.11	0.56	1.29	0.64	1.00	0.00
	11	2.55	1.27	1.45	0.77	2.14	1.06	1.41	0.77
	12	3.63	1.12	1.92	1.16	2.19	1.21	3.45	1.45
	13	3.72	0.83	3.40	1.17	2.95	0.92	3.47	1.13
	14	3.12	1.21	2.03	1.19	2.24	1.30	1.72	0.87
III	15	3.38	0.92	2.55	1.16	2.43	0.93	2.26	1.10
	16	2.98	0.93	2.94	1.31	2.57	0.98	2.07	1.11
IV	17	3.92	0.89	3.09	1.32	3.29	1.15	3.40	1.14
	18	4.17	0.72	4.14	0.77	3.67	1.06	3.71	1.09
	19	2.92	1.12	4.45	0.71	3.76	1.18	3.07	1.15
	20	4.28	0.76	3.26	1.16	3.43	1.33	3.98	1.00
	21	2.58	1.25	1.45	0.83	1.62	0.97	2.19	1.25
	22	4.53	0.57	4.38	0.68	3.86	0.91	4.66	0.66
	23	3.20	1.38	3.72	1.35	2.71	1.49	1.88	1.16
	24	1.08	0.33	1.48	1.11	1.48	0.87	1.09	0.34
	25	2.25	1.26	2.00	1.30	3.14	1.39	2.17	1.40
Total (I～IV)		3.11	0.32	2.70	0.26	2.68	0.22	2.58	0.37

購入するスタイルのグループ」と考えられる。

2) 女の子のクラスタ分析の特徴

主な主成分 PC1～PC3 の主成分得点 PCS1～PCS3 (Table 6) を用いて、男の子の保護者と同様の方法で 4 つのクラスタを抽出した。クラスタ別の主成分得点と I～IV の各項目の平均値と SD を Table 9 と Table 10 にまとめ、前述 Table 3 の女の子の保護者全員での平均値とも比較した。

クラスタ 1 (n=67): 人数は 4 つのクラスタの中で 2 番目に多い。PCS2 の正の平均値が高い。I の保護者のファッション観 (意識・管理) は他のクラスタに比べ高く、II の 9. 女の子のファッション意識と 13. TPO に関してもやや高い傾向が認められる。III と IV でも保護者と女の子の衣服の会話はあって、一緒に買い物にいった店頭で話し合っ購入する傾向がある。ただし保護者のみで決める場合も、他のクラスタより高い。I の 5～7 の保護者の管理 (平均値 4.16) と II～IV の女の子のファッション観や衣服購入スタイル (平均値 3.13) にはやや差が認められた。

女の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者のファッション意識がとくに高く、女の子のファッション観 (意識・管理) は低い傾向を示すが、保護者と女の子のファッションは似ており、女の子より保護者が衣服選択をする割合が全体の平均値より高い。

クラスタ 1 は、「保護者のファッション観 (意識・管理) はややあるが、とくにファッション意識が高く、女の子のファッション観はやや低い傾向で、保護者が主体で衣服購入する場合もあるグループ」であった。

クラスタ 2 (n=79): 人数は 4 つのクラスタの中で最も多い。PCS2 の負の平均値と PCS1 の正の平均値がやや高い。I の保護者のファッション意識がやや高くはないが、ファッション観全体 (意識・管理) はやや高い傾向を示す。一方、女の子の II～IV では他のクラスタよりファッション観 (意識・管理) は高く、15. 保護者との衣服に関する会話もあり、17, 18, 20, 22 の購入スタイルは保護者と一緒に店頭で話し合っ決める傾向が強い。

女の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者自身のファッション観 (意識・管理) は平均値と差が少なく、女の子のファッション観 (意識・管理) が他のクラスタに比べて非常に高く、保護者と衣服についての会話を良くしており、保護者と女の子と一緒に買い物にいつている。ただし、他のクラスタに比べて女の子が主体で購入決定をする傾向が高い。

クラスタ 2 は、「ファッション観に関して、保護者はやや高く、女の子はとくに高いため、衣服購入スタイルは店頭で一緒に話し合うが女の子が主体傾向もあるグループ」であった。

クラスタ 3 (n=31): 人数は 2 番目に少なく、PCS3 の負の平均値が非常に高い。I の保護者の衣服管理・購入・TPO などのファッション管理が、1～3 のファッション意識より平均値が高い傾向を示す。女の子の II～IV では、15. 保護者との衣服に関する会話がややあり、クラスタ 2 と同様に 17, 18, 20, 22 の購入スタイルは保護者と一緒に店頭主体で話し合っ決める傾向が強い。

女の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者自身のファッション意識は低く、ファッション管理が高い。女の子のファッション観 (意識・管理) は平均値と大差ない。衣服購入はネット等の利用はとくに低く、店頭主体である。

クラスタ 3 は、「保護者はファッションの管理が高く意識は低い、女の子はファッション観 (意識・管理) がやや高い、衣服を保護者と一緒に話し合っ大半のものを店頭で購入するグループ」と考えられた。

クラスタ 4 (n=25): 人数は最も少ないクラスタである。PCS1 の負の値が非常に高く、PCS3 の正の値がやや高い。保護者は I の 5 と 7 の衣服管理と TPO のファッション管理がやや高く、女の子 II～IV の 19,

Table 9 女の子の保護者のクラスタ別
主成分得点の平均値と SD

Cluster	Cluster 1 n = 67		Cluster 2 n = 79		Cluster 3 n = 31		Cluster 4 n = 25	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
PCS1	0.04	0.63	0.56	0.84	-0.16	0.65	-1.67	0.70
PCS2	0.96	0.84	-0.64	0.56	-0.35	0.74	-0.12	0.82
PCS3	-0.05	0.69	0.31	0.73	-1.33	0.47	0.79	1.34

Table 10 女の子の保護者のクラスタ別回答の平均値と SD

分類	質問項目	Cluster 1 n = 67		Cluster 2 n = 79		Cluster 3 n = 31		Cluster 4 n = 25	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
I	1	4.07	0.70	3.68	0.91	3.19	1.08	2.56	0.82
	2	4.48	0.53	4.22	0.84	3.65	1.11	3.00	1.12
	3	4.24	0.55	4.04	0.85	3.77	0.88	2.92	1.12
	4	2.46	1.36	2.56	1.38	1.68	1.11	1.72	1.24
	5	4.57	0.58	4.08	0.71	4.81	0.40	3.76	0.93
	6	4.49	0.77	4.18	0.83	4.71	0.46	3.12	0.97
	7	4.45	0.56	4.19	0.66	4.32	0.65	3.56	0.77
	8	4.51	0.56	4.35	0.73	3.81	1.17	3.44	1.19
Total (I)		4.16	0.70	3.91	0.58	3.74	1.00	3.01	0.65
II	9	3.79	0.88	4.52	0.64	4.10	0.70	3.44	1.00
	10	1.24	0.65	2.25	1.48	1.48	1.03	1.20	0.65
	11	1.91	1.07	2.97	1.22	2.74	1.21	2.44	1.19
	12	3.04	1.16	4.56	0.55	4.10	1.08	3.00	1.22
	13	3.66	1.15	4.06	0.74	3.32	0.98	3.04	1.10
	14	3.31	1.21	4.41	0.78	4.00	0.97	3.00	1.04
III	15	3.82	0.95	4.42	0.65	3.61	0.80	2.80	1.08
	16	3.42	1.03	3.11	1.13	2.58	1.09	2.28	1.14
IV	17	4.04	0.84	4.56	0.64	4.23	0.92	3.44	1.29
	18	4.15	0.66	4.44	0.61	4.00	0.73	3.44	1.12
	19	3.57	1.13	2.28	1.11	2.71	1.07	3.48	0.87
	20	4.13	0.87	4.67	0.55	4.42	0.85	3.80	1.00
	21	1.93	0.99	3.18	1.18	2.71	1.30	2.16	1.18
	22	4.45	0.56	4.54	0.53	4.90	0.30	3.72	0.98
	23	3.25	1.40	3.35	1.29	1.52	0.85	3.40	1.38
	24	1.25	0.70	1.16	0.54	1.10	0.40	1.80	1.08
	25	2.21	1.41	2.29	1.46	2.32	1.42	3.48	1.36
Total (I～IV)		3.13	1.03	3.58	1.09	3.17	1.13	2.94	0.73

20, 22 がやや高い平均値で、店頭で保護者のみが購入の場合と女の子と話し合って購入する2つのスタイルがあった。また、他のクラスではみられなかった25の人から譲ってもらう譲受けスタイルもあった。

女の子の保護者全員での平均値と比較すると、保護者と女の子のファッション観（意識・管理）は低い。衣服調達スタイルは、ネット等、フリマアプリ、人から譲り受ける、保護者が主体で決める場合が他のクラスより高い。

クラス4は、「保護者と女の子のファッション観は低く、衣服調達は店頭、ネット等の利用、譲受けも活用した様々なスタイルで、話し合う場合と保護者主体の場合があるグループ」であった。

4) 男女の保護者のファッション観の特徴

前述の Table 3 で男の子の保護者と女の子の保護者のI～IVの回答の平均値を比較すると、Iの保護者自身のファッション観の傾向に大差はない。II～IVの保護者からみた子どものファッション観などの多くの項目に差が認められた。さらに、ファッション観等に関する保護者と保護者からみた子どもとの関係には、いくつかのタイプが抽出された (Table 7 と Table 9)。Fig. 1 に、保護者と子どものファッション観等の組み合わせによる男女の子どもそれぞれのタイプをまとめた。

ファッション観の保護者と子どもの組み合わせは、男女の子どもはほぼ同じタイプのA～Dに分類されていたが、人数の配分がやや異なる。Aタイプは、保護者のファッション観がやや高いと子どものファッション観はとくに意識が高く、一緒に話し合って店頭で服を購入する。ただし、女の子はファッション意識が高いためか、主体的な衣服選択もする。男女の子ども保護者の人数も60～70人で、全人数の約1/3のスタンダードなファッション観と衣服購入スタイルのグループであった。ただし、男の子の保護者数が10名少ない。Bタイプは、保護者のファッション意識はとくに高いが、子どものファッション観は低い傾向のためか、保護者主体で店頭での衣服購入であり、他に男の子は通販も利用される。女の子は一緒に買い物には行く。65～67名のほぼ同じ人数で1/3を占める人たちの、Aタイプとは異なる別のスタンダードなグループである。Cタイプは、保護者と子どものファッション観が同じように低い傾向のためか、保護者主体で店頭での衣服購入であり、他に女の子は通販も利用される。21名～25名の最も人数の少ないタイプのグループである。ただし、男の子の保護者数が

少ない。Dタイプは、保護者はファッションの管理はやや高く意識は低い。男の子は保護者と同傾向で、女の子はファッション観がやや高い。いずれも話し合って衣服購入スタイルであり、女の子は一緒に買い物に行く。基本的に男の子の保護者が元々4名多いが58名で、女の子の保護者31名に対して非常に多い。男の子の保護者のファッション観と衣服購入スタイルとしては、他のタイプとは異なるスタンダードなグループであった。

保護者のファッション観に関しての子どものファッション観が異なって低い傾向の場合は、保護者が主体で衣服選択購入をする傾向が認められる。一方、保護者と子どものファッション観が低い場合も、保護者主体で話し合って衣服購入がされており、店頭購入が多いが、通販も利用される傾向があった。子どものファッション観の低さを保護者主体で対応せざるをえない面も伺える。

女の子の場合、保護者と子どもの両者ともにファッション管理が高く意識が低い場合、男の子の場合と同様の場合がスタンダードで人数も多い。しかし女の子の場合はファッション意識もやや高く、保護者より子どものファッション観が高い場合がある。保護者からみて子どものファッション観のうち意識が高いと評価されたのは女の子ではAとDタイプで、合計101名

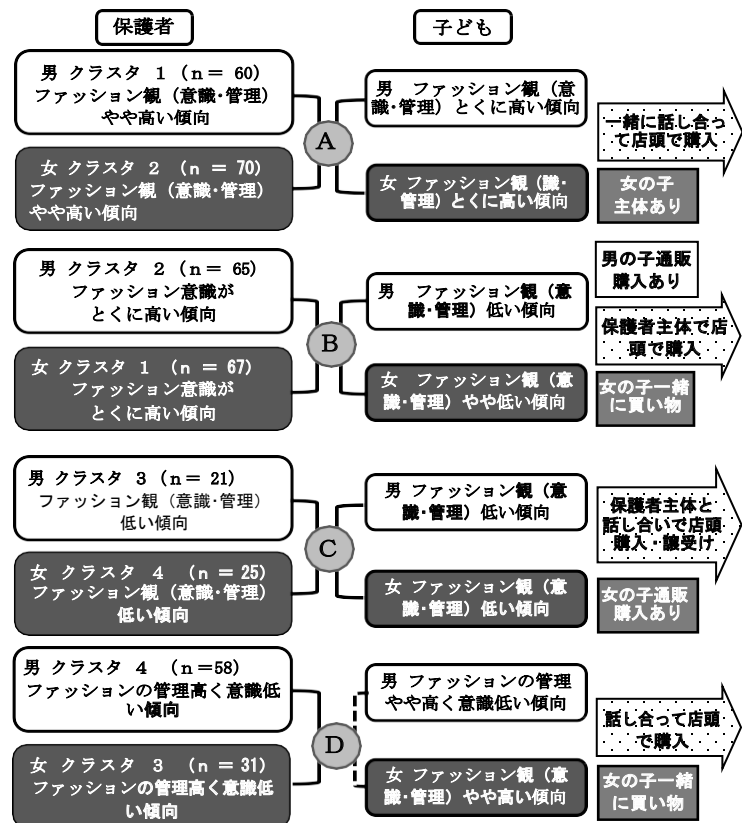


Fig. 1 保護者と子どものファッション観と衣服購入スタイル

(全人数 202 名), 男の子はAタイプで合計 60 名(全人数 204 名)である。女の子のファッション意識が高く、買い物も一緒にいって店頭で話し合ってもしくは自分で決めるスタイルである。男の子はAとDタイプでのファッション管理が、合計 118 名(全人数 204 名)で高い傾向を示した。評価した保護者に母親が多いことから、女性からの視点での評価であること、同事に保護者からみた子どもの性差を背景とした評価の影響も推測された。はじめの家庭科の授業で取り扱う教材での、裁縫に関する要求度での男女の差からもその傾向が伺えた。

次の課題として、子どもの年齢によるファッションに対する興味の変化なども考えられ、多方面からの検討がさらに必要と考える。

4. 総 括

小学生 1 年生～6 年生の保護者 406 名(男の子の保護者 204 名, 女の子の保護者 202 名)に、衣生活を形成する保護者と子どものファッション観(意識・管理)についてアンケート調査を実施した。男女の子どもの保護者からの小学校家庭科に対する授業内容についての要求度も含めて検討した。

主な考え方やファッション観に関する実態と保護者と子どもの間での意識・管理、さらに調達行動などの特徴が抽出された。

1. 小学校家庭科の授業教材について小学生の保護者は、現在の内容の要求度はほぼ高く、必要性を感じている。なお、縫製関係に関して、女の子の保護者の方が男の子の保護者より数値的な要求はやや高いが、男女の子どもの保護者共に、その要求度そのものは平均 3.6～4.4 のやや高い傾向が認められた。
- 保護者の授業内容に関しての要求項目の主成分分析を行った結果、既製服などの購入後の衣生活管理から廃棄までの成分と縫製関係の成分は区別されていた。さらに小学生ではネット等を利用した購入までの調達の知識指導までの授業内容は別の成分として抽出された。実際に、ネット等の通信販売の利用方法に関する要求度は最も低い傾向を示していた。
2. 男女の子どもの保護者と保護者からみた子どものファッション観(意識・管理)と衣服調達行動に関して検討した。男女の子ども別に、主成分得点を用いたクラスタ分析から、男女の子ども別に 4 つの類似したタイプのグループが認められた。男女の子どものタイプを合わせて、A～D のタイプ別にまとめた結果、保護者と子どものファッション意識と管理が似ているタイプと異なるタイプの組み合わせがあり、子どものファッション観の高低により、保護者が主

体の場合、保護者と子どもが一緒に話しあう場合、子どもが主体傾向の場合の衣服調達スタイルになる行動が認められた。

多くの場合、店頭で一緒に話し合っただけで衣服購入する人が多いが、保護者もしくは子どものファッション観が低いと、通販の利用傾向が伺われた。とくに男の子より女の子の保護者と子どものファッション観を意識する人が多く、衣服に関する会話や一緒に買い物に出かける傾向がみられ、衣服を通したコミュニケーションが成立する傾向が示唆された。

謝 辞

本研究にご協力いただいた皆様に深謝申し上げます。とくに三重大学附属小学校の先生方および保護者の方々には多大なるご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

本研究のまとめの一部には、2017 年度～2019 年度科学研究補助金 挑戦的研究(萌芽) 17K18626 の助成をいただきました。ここに謝意を表す。

引用文献

- 1) All About 暮らし 子ども服/子ども服関連情報 これからの子ども服専門店業界の活路は?【業界ニュース】子ども服専門店, <https://allabout.co.jp/gm/gc/189013/>
- 2) Business Journal 企業・業界縮まる子ども服市場、明暗二極化進む～迫られる販売チャネルの変化、PB や海外展開に活路, https://biz-journal.jp/2013/12/post_3616.html
- 3) キッズ・小学生 ファッション雑誌ガイド, <https://www.magazine-data.com/women-menu/kid.html>
- 4) 高森 壽, 松山 容子; 日本教科教育学会誌, 第 18 巻, 第 3 号, 29-39 (1995)
- 5) 岡田宣子; 日本家政学会誌, Vol 51, No. 7 595-603 (2000)
- 6) 文部科学省 小学校学習指導要領「生きる力」 第 2 章 各教科 第 8 節 家庭, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm
- 7) 文部科学省 小学校学習指導要領 旧学習指導要領 第 2 章 各教科 第 8 節 家庭, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320003.htm
- 8) 文部科学省 小学校学習指導要領 新学習指導要領 第 2 章 各教科 第 8 節 家庭, www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf